

# 若楠かわら版

社会福祉法人 若楠  
療育医療センター 若楠療育園  
若楠児童発達支援センター



〒841-0005

佐賀県鳥栖市弥生が丘 2 丁目 134 番地 1

Tel 0942-83-1121

Fax 0942-83-1755

## 令和7年度 園内研究発表会



部 署	演 題 名
栄養課 (本年度最優秀演題)	防災食についての取り組み
リハビリテーション課	重症心身障害者(児)に対する口腔ケア 及び口腔マッサージの取り組み
児童発達支援 センター	人へ援助要求ができず歩き回る児童への支援の再検討 ～冰山モデルを用いた理解と関わり～
第一生活棟	N 氏の ADL の向上・生活支援の充実を図る
第二生活棟	高頻度接触面とケア導線における菌の残存と拡散の可視化

研修委員会主催「園内研究発表会」が2月18日に開催されました。

今年は5演題が寄せられました。

多岐にわたる事業展開の表れのようにテーマも様々で、それぞれの分野での新たな取り組みを知ることができ学び多き時間となりました。

「対面・ZOOM 配信・録画視聴」でのハイブリット開催は今後も継続していきます。

特に「ZOOM配信」では、会場参加ができない職員をはじめ入園利用者の方々にも会場での発表をお届けできた上、委員としても運営スキル向上の良い機会でした。

来年は2月17日に計画しています。次年度も多忙な中にも研鑽、探求を紡がれる職員皆様に敬意を表しつつ、晴れの舞台をサポートしていきたいと思ひます。

沢山の演題をお待ちしております。 (研修委員会 委員長;金納 広勝 副委員長;鳥飼 龍洋)

# 入所支援部



## 節分

今年も鬼がやって来た～！

「鬼は外～っ！福は内～っ！」の掛け声とともに豆まきをしました。

正面や背後からなど、投げ方も様々。鬼は驚いていました。

入園者の中には、怖がる方もいれば、余裕な表情の方などもいて皆で福を招き入れて節分行事を楽しむことができました！



# 成人のお祝いの会

1月10日、N.Hさんの成人のお祝い会が開催されました。  
当日はご家族の皆さまにもご出席いただき、生活棟の入園者の方々や職員とともに、多くの方に見守られ祝福される中で、心温まる時間となりました。

振袖に身を包み、とても嬉しそうなNさん。素敵な笑顔がたくさん見せてくれました。

これから歩まれる人生が、たくさんの笑顔と幸せに満ちたものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。

ご成人、誠におめでとうございます。



## 年間行事

- 毎月 誕生日会
- 第3水曜日 ケーキの日

### [4月]

- 6日(月)中原特別支援学校始業式
- 8日(水)花祭り
- 11日(土)保護者の会総会

### [5月]

- 1日(金)第49回創立記念式典

### [6月]

- 3日(水)中原特別支援学校  
「50周年記念コンサート」
- 6日(土)保護者の会車椅子清掃・勉強会

※感染症の流行状況等により、行事内容を中止、延期する場合があります。ご了承ください。

## お知らせ

- ◆衣替えの時期になりました。衣類を持ってきてくださるご家族様へ。

名前の記入をして頂ける場合は衣類の襟元又は裾の内側にひらがなで記載をお願い致します。

(例)わかす たろう



## 【若楠療育園 各種委員会のご紹介】



## 「利用者にとって、安全で美味しく、また楽しみもある食事提供を」

この委員会は事務長・療育地域両部長、各部署代表者(看護師・生活支援員・ケアワーカー)、言語聴覚士、調理師・管理栄養士で毎月開かれています。

その中では20年間、毎月続けている新メニュー(2～3品)の提案、実食後の意見交換、言語聴覚士による評価(食べやすさ、安全性)も行います。

メニューは喜んでもらえそうなものを毎回料理本やインターネット情報を参考にお出ししています。

また、既に提供しているメニューについても委員全員で振り返り、改善すべきところについて検討します。

今後也得到了貴重な意見は栄養課に持ち帰り、日々の食事に活かせるように努めて参ります。  
(委員長;管理栄養士 井手口千恵 副委員長;調理師 武石 愛)

## 【編集を終えて】

今年度は栄養課による「防災食についての取り組み」が園内研究発表会最優秀賞となりました。これまで防災食は備えとして用意されてはいても、活用のしやすさという点では十分に整理されていない部分がありました。そこで栄養課では、防災食のマニュアルを見直し、備蓄食品の内容を再検討するとともに、防災食を実際に提供する訓練を実施しました。

そして、今後も検討を重ねていくとのことです。

発表の最後にあった「防災食は命をつなぐもの！」という言葉が、とても印象に残りました。

東日本大震災から、今年で15年になります。私は4歳から15歳までを宮城県仙台市で過ごしました。震災直後は、思い出の場所の変わり果てた姿に胸が苦しくなる思いでしたが、年月が経った今は、3月11日が近づくと静かにあの日のことを思い出しています。

災害はいつ起こるかわかりません。

だからこそ、日頃の備えが大切なのだ改めて感じます。

今回の栄養課の取り組みも、その大切な備えの一つです。

大きな災害の記憶は、時間とともに少しずつ遠くなっていきます。

しかし、備える気持ちはこれからも大切にしていきたいものです。

今回の取り組みをきっかけに、日々の小さな備えを重ねながら、いざという時に大切な命を守る園であり続けたいと思います。



(事務長 新貝 恵美)

生活介護事業



「自分だけの鬼のパンツ」を作りました。  
 折り紙と画用紙だけでなく、毛糸やフェルトを使って手先の感覚を刺激し、のりやハサミを使うことで腕や手先を動かすなど様々な要素を取り入れています。  
 出来上がった鬼のパンツは壁面に飾るととてもかわいらしくにぎやかになりました。



節分といえば「鬼」。  
 鬼が出てくる「ももたろう」と「一寸法師」の劇をしました。劇の練習や衣装・小道具の準備も利用者さんと一緒に。

鬼退治の時は笑顔で「鬼は外～っ！」と鬼に豆を投げつけていました。



# 若楠児童発達支援センター

やさしく  
あかるく  
すこやかに

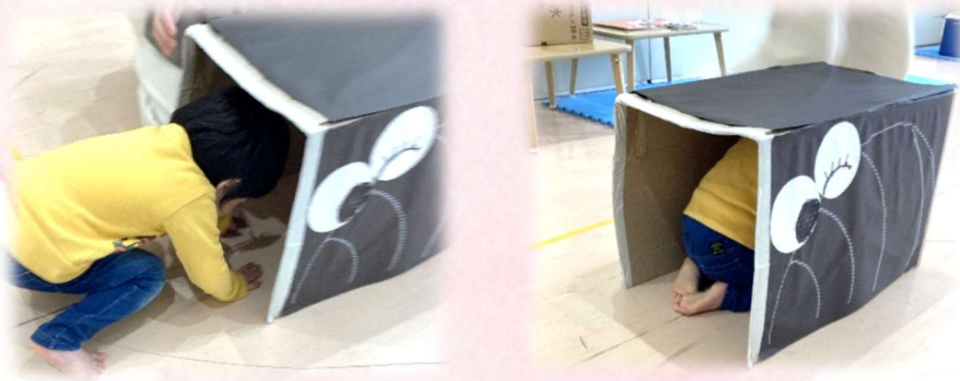


## 児童発達支援

災害時、自分の身を守るための姿勢を学ぶ事を目的に、「ダンゴムシになろう」の活動であそびを通して行いました。

まずは職員がダンゴムシの絵や見本を提示し、姿勢のイメージを持てるようにしました。

狭い場所を好まれる児童には段ボールの中に入り、ダンゴムシのように身体を丸める姿勢に遊びを通して楽しく挑戦してくれました。



## 放課後等デイサービス

1年間それぞれの目標に向けて頑張ってきた個別活動も、年度末ということでまとめの段階に入りました。自分で計画を立てたイベントが大成功したり、自分だけの作品を完成させたりしました。

また、「個別活動発表会」では発表をする時も聞く時も、真剣な表情で取り組む子どもたちの姿が印象的でした。



## 若楠児童発達支援センターでは、 次のような事業をおこなっています

### ✿発達支援

#### 通所

##### ○児童発達支援事業○

フレームワークを活用し、より主体的・自発的に生活できるよう支援をおこなっています。また、関係機関（保育園・幼稚園・他事業所・重心医療など）との連携もおこなっています。

##### ○放課後等デイサービス事業○

活動を通して集団生活への適応を高め、自立や社会生活の充実を目指しています。年に 2 回程度、職員が学校へ授業の見学に向い、情報共有・相談対応をおこなっています。

#### センターで働いている職員

保育士（常勤 7 名）  
社会福祉士（常勤 1 名）  
児童指導員（常勤 1 名）  
言語聴覚士（常勤 1 名、非常勤 1 名）  
作業療法士（常勤 1 名）  
理学療法士（常勤 1 名）  
臨床心理士（常勤 1 名）  
公認心理師（常勤 1 名）  
看護師（常勤 1 名）  
強度行動障害支援者養成研修修了者 3 名

### ✿家族支援

#### 地域

##### ○保育所等訪問支援事業○

支援を必要とする児童の保育所等（学校含む）に訪問し、本人がより良い集団生活を送れるように訪問先の事業所と共に支援を行います。

##### ○佐賀県児童発達支援センター機能強化事業○

- ・発達相談（予約制）
- ・親子教室、チャレンジ教室（療育指導教室）
- ・訪問相談
- ・研修会、学習会

#### 若楠児童発達支援センター 児童発達支援管理責任者の役割

子ども一人ひとりの発達状況や、ご家族の思いを大切にしながら、個別支援計画の作成や見直しを行なっています。

日々の支援がより良いものとなるよう、職員間の連携を図り、必要に応じて関係機関とも協力をしながら、お子さまの成長を支えています。

#### 令和 7 年度実施 研修会・学習会

地域：就学準備学習会（令和 8 年 3 月 14 日）

職員研修：・虐待防止委員会（身体拘束委員会）

・感覚統合 ・障害特性とアセスメントの視点 ・ご家族との関わり方（心理）